

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	トイロ津久井		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日		～ 2025年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2025年12月8日		～ 2025年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	実行スピードの速さと「自律型」の組織風土	会議で決まった支援方針やルールが、翌日から即座に現場に反映される「実行力」が最大の強みです。管理者の指示を待つだけでなく、職員一人ひとりがマニュアルを自分事として捉え、改善を繰り返すスピード感は、児童への安全かつ質の高い支援に直結しています。	職員が「自分で考えて動いたら、もっと良くなった！」という成功体験を積み重ねられるよう、あえて「正解」を言わずに「どうしたらいいと思う？」と問いかける機会を増やす。
2	専門性と「意欲」を融合させたチーム支援	会議の場だけでなく、日々の申し送りにおいて専門職のアドバイスを仰ぐ時間を意図的に設けている。これにより、現場メンバーがその場で学びを得て、即座に支援に活かせるサイクルを構築している。	職員一人ひとりの判断力を高め、専門職とのディスカッションをより深化させる。
3	児童の「背景」に寄り添う、柔軟な支援姿勢	児童の行動を否定するのではなく、「こうすればできるよ」「今はこれならいいよ」といった肯定的・具体的な提案(代替行動の提示)を徹底。児童の自己肯定感を損なわない関わりを意識している。	児童ができたこと、挑戦したことを「グッドニュース」として保護者やチームに発信。ポジティブな視点を強化することで、支援者側の「見守る力」と「待つ力」をさらに養う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特定の熟練メンバーや専門職が担当する際には安定するが、経験の浅いメンバーが対応する際に支援の質に差が出てしまい、児童の混乱を招く場面がある。	「感覚」や「経験値」に頼った支援が一部で続いており、個別の支援技術がチーム全体の「共通知」として十分に言語化・共有されきっていないため。	動きをマニュアル化し、誰でも一定のクオリティで動けるよう、ペア支援を通じた技術伝達を強化する。
2	送迎が重なる時間帯や、現場でトラブル(怪我や痙攣)が重発した際、リーダーへの報告や管理者へのエスカレーションが後回しになり、情報の鮮度が落ちることがある。	現場対応に追われるあまり、「まず報告する」よりも「まず目の前の対処」を優先してしまう文化があり、組織としての初動が遅れるリスクを孕んでいるため。	「一報」のルール化。判断を伴わない「事実のみの即時共有」を徹底する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 トイロ津久井

公表日 2026年3月10日

利用児童数 33名

回収数 22名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	2				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	4	2	4	もう少し増やしたほうが、先生方も余裕を持って働けると思う。	職員の体制を見直し、対応したいと考えています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20			2		
適切な 支援 の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	1	1	1	職員によってできる人とできない人がいる。	研修やOJTを通して職員の育成に励んでいきたい。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21			1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1	1			
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	3				
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	14	3	3	2		
保護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20		1	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	2	1	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	2	1	1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	20	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1	1	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1		1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	3	2	4		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	2		3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21			1	他の事業所のブログで名札が写っていた。	当事業所ではこのようなことのないよう二重チェックを行っていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1	1			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	2			毎日楽しく参加できています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		トイロ津久井				公表日		2026年 3月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	4	運動が必要な児童などの対応は工夫して行えている。	パーティションの配置変更やリラックスできる備品の導入を行う。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	5	臨機応変に動ける職員の育成が必要	全スタッフがどの児童の特性も把握できるように「引き継ぎシート」を共有し、即戦力化を図る。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	2	クールダウン目的の部屋が使いづらい。	パーティションの配置変更やリラックスできる備品の導入を行う。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	3					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	6					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	4					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1					
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	2					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	2					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	3	共通理解を深められるように改善が必要	支援終了後の振り返り時間を確保し、その場で気づきを共有していく。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	3					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	4					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	3					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	2					

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	2		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	4		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	8	2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6	4		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	3		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	3		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	2		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	8	前例がないため	移行時には情報提供を速やかに行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	2	ごみ拾いなどの活動を行っている。	地域行事への積極的な参加や住民との交流機会を増やし、地域に開かれた運営を目指す。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	2			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	3			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	3		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	2		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	2		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	3		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	3	年に1回保護者会開催	他にも夏祭りなどの企画も行っている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	7		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	3		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	3		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	2		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	3		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	3		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	3		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	2	安全計画としては改善必要	安全計画を現場の動線や児童特性に合わせ、より実践的な内容へと随時見直す。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2	適宜周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	4		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	2		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	2			